

世界の若者たちが真砂にやってきました



外国のおにいさん、おねえさんと一緒に勉強したよ。

教育委員会だより

第3号

益田市教育委員会より 平成24年10月17日発行

益田市の教育について

教育委員長 廣兼義明

辛い事を乗り越える力を学ぶ事が、生きる事に必要だと思えます。

2011年度の四年制大学の卒業生のなかで、15.5%の8万6600名が進学、就職についてないのです。

就職しても三ヶ月もたない人がいることも課題になっていきます。

また、義務教育を終えた子どもの学力が期待する程度に達していない事も課題になってます。

学校は学びの場所、友だちを通して、楽しい事、辛い事、驚き、感動、悲しいことを感じるところであり、考えを深める場所です。

当然、人間同士ですので、相性が合う、合わないそんな事もあります、そんな

中で、たくましい若者が増えて欲しいと思います。

そして、学校では、ぜひ、世の中の道理や原理、原則を学んで欲しいし、建前を学び、問題の理解を確実にしていただきたいと思えます。

義務教育では、物事に正面向き合うこともですが、要領は悪くとも、分からないので、教えて下さいと尋ね、頭を下げられる姿勢をもつこと、伝えられること。

自分一人で、頑張ることも必要な事です。一人で生きられないことも事実。

頼る、頼られることを学ぶこと、実行することが必要です。

高校には、教科を深めるのも大事ですが、時代を理

解するヒント、方法、進み方を子どもたちに伝えて欲しいと思います。

そして、何より事実や本音の取り扱い方を伝えて欲しい。

最後に

難しいことをやさしくやさしいことを深く深いことを愉快地に
井上ひさしさんの座右の銘です。

人生のエキスポも子どもたちに伝えることが大事です。

目次

表紙(学校紹介)	1P
教育委員長寄稿	2P
教育情報	2、3P
カラフル給食タイム	4P
寄付、寄贈のお礼	
平成23年度教育委員会点検・評価報告	

就任のごあいさつ

教育長 村川 修

十月一日付で教育長に就任いたしました村川修です。

益田市の山本新市長就任に伴うことで、私自身にとって突然の出来事となり、グラントワへの思いを持ちながらの就任となりました。

就任して、改めて強い思いに至ったことは、地域の発展と子ども達に文化的な心を培っていききたいの思いです。

私が最初にグラントワに着任したのが平成19年でした。グラントワのすばらしさに感動するとともに、この施設をいかに地域の発展に活用ができるかとの思いになりました。

いろいろ勉強をしていく中で、益田にはすばらしい歴史と恵まれた自然、豊かな地勢と地力など日本でも有数の環境を持っていると確

信しました。

この地にグラントワ

ができ、他の小都市に

は、まねができない環境ができたと思っています。また、大きな都市には、まねのできない人と人が支え合うまちとして発展させていくことができる。

この恵まれた環境を地域の皆さんが共有し、次代を担う子ども達に地域のすばらしさをしっかりと伝えていくことが大人世代の役割です。

子どもの育成に関わる他、部局や地域の様々な人、益田を愛する人と連携して、子どもに地域の絆と、培った歴史や文化を教え、誇りにわたって地域を愛する人として巣立つよう努めたいと思います。



発見！驚き！ふるさと体験・見学バスの旅

七月四日に、私は高津川あり、海とは関係ないと思っただけに行きました。私が一番心に残ったことは、入口にくつを消毒する場所があったことです。これは、アユに病気がうつらないようにするための工夫だということを漁協の方が教えていただきました。

見学に行つて、漁協の人たちの努力や工夫で高津川のアユは大切に育てられていることがわかりました。



高津川漁協

中西小4年生と中西小内田分校3・4年生

私たちの学校は山の中に

選別から箱詰めまでしてくれるから、とても便利だといふことがわかりました。あまさや重さをはかる機械もありました。とてもすばやくて正確でした。

見学中、二階からいきなりダンボールがすべり台みたいになってきてびびりました。

アールスメロンの重さが三キロあって、すごく重かったです。とってもおいしいメロンを食べてうれしかったです。



JFしまね

美濃小3・6年生

十月十日、益田市飯田町にある「JA西いわみ多品目選果施設」の見学に益田小3年生六十名で行きました。

選果施設に農家からJAにメロンが送られるわけは、



JA西いわみ多品目選果施設

益田小3年生

益田市教育協働化推進事業(つろって子育て)

地域における学校・家庭教育支援の例・通学合宿の様子

今年度も、左下表のように益田市内の9団体が通学合宿を企画・運営しています。長いところは12年目を数え、地域の恒例行事となっています。

当然、通学合宿ですから通常の学校生活を当たり前に取り組むことが大前提ではありますが、子どもたちは、地域のたくさんの方と触れ合いながら、非日常の生活の中でたくましく成長していきます。

そして、保護者も数日子どもと離れることによつて子育て



美濃通学合宿(七夕飾り)の様子

開催月	開催地区	活動内容
7	北仙道、安田、美濃、小野	宿題、理科実験、竹細工、芸能体験、そうめん流し、調理、読み語り、もらい風呂、温泉利用、バーベキュー、花火、キャンドルサービス、やまめつかみ、独居者に手紙を書く、スイカ割り、七夕飾り、こま回しなど
8	東陽中、西南中	
9	豊川、二川・都茂合同	
10	東仙道	

てについて振り返る良い機会ともなっています。他の地域でも取組んでみませんか？

中世の湊町 中須東原遺跡について (第二回 遺構編)

中須東原遺跡には、土地に刻まれた昔の人々の活動痕跡である様々な「遺構」

がよく残っています。これにより、中世の湊の様子を知ることができます。

港の機能上、最も必要な船の接岸・荷揚げ場施設として、中須東原遺跡では「礫敷き遺構」と呼んでいます。

乙吉町に残る中世今市船着き場跡(市指定)のような石垣護岸ではなく、波打ち際に拳大〜人頭大の石(礫)を長さ数十m〜数十mにわたつて敷き並べたもので、3地点で見つかっています。

これらの礫敷き遺構が、同時に使われていたものか、あるいは時代のちがいを意味するのか、解明を進めているところですが、中須東原遺跡で見つかった礫

敷き遺構ほど保存状態が良くかつ大規模なものは全国に例がなく、日本を代表する港湾遺跡と呼んで良いでしょう。

この他、町屋の部分からは、鍛冶炉や鉄滓(鉄を溶かした際の不純物、残りかす)の捨て場など鍛冶に関わる遺構がたくさん見つかっています。

鍛冶には、鉄素材を作る、製品を作る、など幾つもの工程があります。ここでは、鉄を叩いて製品を作る「鍛練鍛冶」の作業が行われていたようです。鍛冶炉の周りでは、鍛冶を行った際に飛び散った火花が冷え固まった「鍛造剥片」と呼ばれる小さな破片がたくさん見つかりました。中須に鍛冶職人集団がいたことは益田家文書から分かっていましたことですが、

発掘調査によつてそれを実証することができました。益田家に伝わり現存する多くの古文書と益田に数多く残る中世遺跡がセットとなつて中世の歴史を解明することができるところが、全国の研究者が注目する益田の魅力の一つです。



礫敷き遺構



鍛冶炉跡

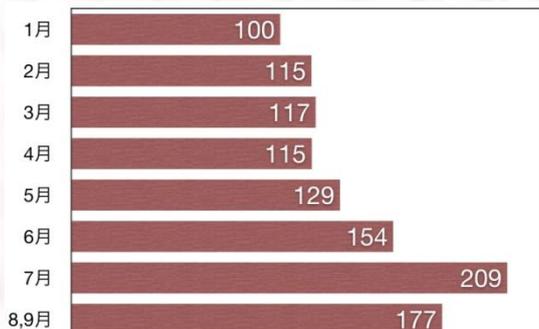
残さず食べよう
残滓を減らす為のちょっとした工夫

日々の残滓量を調査・確認

益田市学校給食共同調理場では、日々の残滓量を確認し、児童・生徒がどれくらい給食を食べているか、という点を把握しています。夏場はどうしても食欲が低下することから、8・9月の献立は「しっかり食べて暑さをのりきろう！」というテーマを設定し、献立を作成しました。

食べても残りに出さない

今日の学校給食は、食育や地産地消といった側面から学校給食を捉えていく傾向が強



◆2012年1月の残滓量を100とした場合の比較

くなっています。ですが、給食を残さず食べてもらうことは作り手である我々にとって第一義の課題であることに何ら変わりありません。苦手な食材も、子ども達にとっても人気のあるカレー味にすることや、食材を出来るだけ細かく切り分けるなど様々な工夫を凝らしながら対応し、少しでも残滓量を減らせる取組みを実践しています。

ドライカレーへの初の試み!

そのような点に着目し考案した献立の中から、9月14日に提供したドライカレーを紹介いたします。この献立では人参、玉葱、エリンギといった食材を一旦、賽の目状や千切り状に切り分けた後、さらにスライサーでもっと細かくするという作業を施し、口に入れやすくなりました。また、ごはんを混ぜ合わせることでさらに食べ易くなっています。

8・9月は、まだまだ残暑

★9月14日の献立

ごはん、牛乳、ドライカレー、ちんげんさいのスープ、なし



献立作成：三保 香

も厳しく運動会の練習などもあり、給食を食べにくい時期が続きましたが、当日はちよつぱり辛い味付けが子ども達の食を進めさせたうえ、教員の皆さんからも「組み合わせが良い」と好評でした。

子ども達にとって苦手な食材・献立も、残さず食べてもらいたいという思いを持ち続け、その為には努力を惜しまないという姿勢であり続けたいと考えています。

寄付、寄贈のお礼

寄贈

○卓球台を高津中学校、益田中学校、小野中学校の3中学校へ各一台
・中国電力株式会社益田電力所 様

寄付

○益田市奨学金へ
・社会福祉法人 梅寿会 様

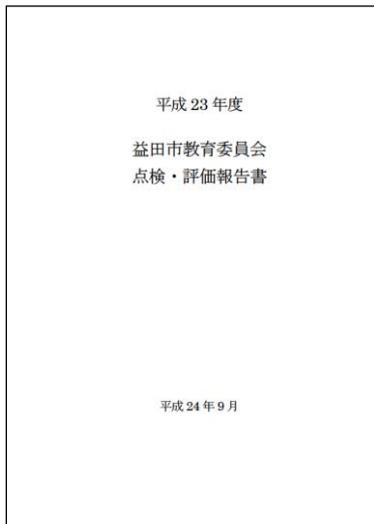


中国電力(株) 様

平成23年度教育委員会点検・評価報告

前年度実施した教育行政事務の管理・執行状況のうち、主要なものについて自己評価及び外部評価を行い、報告書をまとめ、平成24年9月の定例市議会・全員協議会で報告いたしました。

この報告書は、益田市のホームページでも公開しており、この結果を今後の方針や施策に反映させたいと考えていますので、ご意見・ご要望等がございましたら、11月末日までに益田市教育委員会教育総務課にお送りください。



点検・評価報告書の表紙

※報告書は益田市ホームページからダウンロードできます。